

職員オススメ本 4月

「今日のかたすみ」 川上 佐都／著 ポプラ社



母、姉と三人で暮らす中学三年生の緋名。緋名はバドミントンの部活中に足をひねったことをきっかけに、学校から距離が近いという理由で別居中の父親の家に一時的に住むことになる。緋名が住み始めてから、ほぼ毎日のように父親がグミを買って用意してくれることや、晩ご飯でポテトサラダが出る時は国旗が付いた楊枝が刺さっていること等気になることはあるが特に不自由なく生活していたある日、緋名は父親の部屋である物を見つけ…。

父娘、友人、恋人同士の生活の悩みや喜びを描いた全5編からなる連作短編小説です。

「文庫旅館で待つ本は」 名取 佐和子／著 筑摩書房



老舗旅館・風屋には、宿泊者が自由に閲覧できる昭和初期くらいまでの古書が併設された文庫がある。その若女将、丹家円（たんげまどか）は特殊な嗅覚の持ち主で、幼い頃から本のおいに敏感すぎて、ただ一冊も読むことができない。しかし、この鼻のおかげで、おいを元に本と引き合う人を見つけることができるのであった。

風屋の若女将がオススメする本で、宿泊者たちが思いの出口を見つけることができる連作短編小説です。

「マンションフォンテーヌ」 小路 幸也／著 祥伝社



小説家としてデビューした羽見晃が住むことになった「マンションフォンテーヌ」。入口には真っ白なアーチ、中庭には噴水があり、フランス人の大家・リアーヌさんが昔暮らしていたパリのアパートを再現している。

入居者は親切で優しい人ばかりだが、管理人の鳶谷さんには人に言えない過去があったり、元DV夫から逃げてきた親子などそれぞれが事情を抱えていた。

マンションを舞台にした偶然という名の運命の糸が人と人をつなぎ合わせる物語です。